

正、彼我の利用し得べき上陸海岸

位置及範圍

(註)

本浦港以外は上陸不可

本浦港(本浦港) 附田本島

質性の岸海。		b					a						
東西南北何れに伸びて あるか	その海岸で最良の上陸 地帯は何処か	土質高潮時、海濱の廣 さ及傾斜波打際から何 処迄奇波地帯か	差 奇波の状況及潮の干満	潮流、強風及颱風	恒風及其の吹く月	海峡利用の能否即長さ 幅、方向	海岸外方からの進入海 面の深度、海底の形状	著明な建物及其他の 構造物	航路燈	防波堤	近接のための陸上目標	背後地の地形	海岸の地形

0047

八ヶ浦は本浦
の約十六哩
にあり、好ま
る泊地と入る
と特徴あり
輸送船團の
泊地、對岸
の船基地に
好適なり
日本海より
此泊地を
利用した。

砂丘地帯の奥の地況		a						
同右鐵道及その行先	砂丘地帯の奥の町	平地か、水田地帯か或は山地帯か	砂丘地帯は無いか	進出路を駭制する地点	進出路は何処から始まつてゐるか	附近の地形及進出路	利用し得る眞水（井戸水流）	海岸の高さ
此の地帯に如何なる港があるか	本浦港							
如何なる種類の港があるか	高港 尚西方面あり八ヶ浦泊地は利用価値大							
泊地は如何	東西二八〇米、南北九〇〇米至一七〇米、水深九〇至二二米。但し本浦灯台と三鶴島、西場附近と通ずる線は高低ありて泊地は不適							
入口、海峡及防波堤の種類	本浦口（三四一四六北）幅八〇〇米の水道に入り約六哩。途中泊地あり							

場着船及港

<p>如何なる波止場、船渠 及繋船場を利用できる か</p>	<p>樽前用浮橋(三〇〇屯級二隻)一基(全長一〇四米) 船用浮橋 四基(一〇〇屯級三隻米もの十敷基)</p>
<p>揚陸地点の水深</p>	<p>四米</p>
<p>港湾收容能力(屯で表 示)如何</p>	<p>七〇〇屯級五隻</p>
<p>揚陸はライターである 他の方法でやるか</p>	<p>三基(三〇〇屯級)三基(五〇〇屯級)三基(一〇〇屯級) 繋船用浮橋の外は船は係る</p>
<p>錨地は何処か</p>	<p>木浦府西方の南角と高下島(標高八三米)を連ぬる線以来 大牙山(標高一七八米)と三鶴島東端を連ぬる線に於る錨地あり</p>
<p>如何なる防波堤がある か</p>	<p>四角ハ速風波物あるを以て防波堤の要なし</p>
<p>如何なる淺瀬が行はれ たか</p>	<p>小型汽船錨地採取の爲水深四・五米ハ淺瀬を行つた あま土砂の沈殿甚しきを工事容易ならずと謂ふ</p>
<p>第一、第二、第三級の 碇泊場は何処にあるか 又幾つあるか</p>	<p>最も錨地は市街の南方三〇〇米以内 税関棧橋の南方</p>
<p>錨地の海底の質は如何 なる種類か</p>	<p>沙泥</p>
<p>如何なる日本艦船が此 の地域を實用したか</p>	<p>一等駆逐艦以下 汽船は二〇〇屯級以下</p>
<p>渡瀬による障碍が此の 地域にあるか</p>	<p>障碍なし</p>
<p>風の遮蔽をするものは 何か</p>	<p>山岳及島嶼に依り遮風</p>
<p>小艇は四季を通じて入 泊出来るか</p>	<p>可能</p>

h	設 施 陸 揚						
<p>此の地盤に石炭、石油潤滑油を積荷する便宜があるか</p>	<p>同時に揚陸出来る船數及其の船の大きさ</p>	<p>陸揚ドックで一日に揚陸出来る屯數</p>	<p>上陸地域の水深</p>	<p>舟艇運着場は幾つあるか又其の長さ</p>	<p>陸揚ドック又は棧橋は何尺か 如何なる倉庫があるか</p>	<p>使用舟艇、漁船かそれより大型か</p>	<p>如何なる暴風信号が使用されるか 海は冬季凍結するかど うか</p>
<p>此の地盤に石炭、石油潤滑油を積荷する便宜があるか</p>	<p>七、〇〇〇屯級五隻 二、〇〇〇屯級二隻(概略)</p>	<p>四〇〇〇屯程あり</p>	<p>四〇五八米</p>	<p>(概略) 枝橋の項参照</p>	<p>港町海岸に延び三隻を連結し全長一四米の棧橋一 海軍用にも長さ約六〇米の浮棧橋一 右の外一〇〇至三五米のもの十數個の外税関埠頭(長一〇〇至一五〇米)四 面積七八〇〇平方メートルの埋立地の物置場四ヶ所を 併り(概略) 倉庫南側に 六〇〇〇平方メートル</p>	<p>船(最大六〇屯 最小二五屯) 五六隻 二〇一六屯の 記録あり最終時約二五隻ありしといふ 曳船三隻。</p>	<p>例年四月より漸増し六七月最多となり八月に入りや 急に減退し九月以降冬季には稀なり。海上の波は概 本港には一層の波の多き竹島附近年平均六十月港内二十日程あり 亦七月の凍結は概して五月中旬の後は概して五月中旬より 多島海に於ては概して二〇日ありは記述を要す</p> <p>平均高潮向岸二時間二五分 大潮の時干満差三・六米 小潮の時干満差二・九米 高低潮時の後三〇分五〇分を轉流 港内潮流三カ所あり 木浦口附近は潮流強く通常七節内外なるも最盛期一節に達す</p>

給 補	
清水を如何にして入手するか(給水管、水船)	給水機、橋、口、径六四、耗り給水栓(能力一時間十屯)
艦船補給施設の有無、利用の能否	五屯給水機(一隻) 機帆船修理可能否 船渠、船架なし

備考
 一、此地は元来海軍の要所なり、八口浦は本陣の要所なり、其地は
 かなり良好な泊地なり、入口多し、特徴あり、輸送船団の避泊地、対潜
 艦艇基地に好適なり、日本海軍は此泊地を屬し、利用し、
 二、又本陣東部の光州は旧日本海軍の要所あり、此地の
 政治交通の要衝なり、軍事上重要な地なり、